

平成21年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4      2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B)      4. 研究期間 平成20年度～平成23年度
5. 課題番号 2 0 7 2 0 0 5 9

6. 研究課題名 新聞・雑誌メディアにおけるジェンダー編成と小説ー大正・昭和の言語態分析

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
2 0 4 3 3 7 0 8	フリガナ ナイトウ チズコ 内藤 千珠子	文学部	講師

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

新聞・雑誌メディアにおけるジェンダー編成と、小説の言語におけるジェンダーの構造の相関に焦点をあて、大正・昭和の言説構造を分析・考察しようとするのが本研究の目的である。

近代日本が国民国家として成立し、戦争や植民地主義の論理が定着してゆく過程で生じた言説の構造について、ジェンダー編成に注目しつつ、言語態分析の方法論をとって研究を進めた。

大妻女子大学図書館、国立国会図書館、国文学研究資料館などを利用し、1920年代から30年代にかけての1次資料を調査した。今年度は、とりわけ国境や境界、移動という運動のもつ論理に注目しながら、1920年代から30年代に構成された言説の枠組みについて検証した。その成果は林芙美子の文学を中心としたかたちで論文化し、また、韓国の近代文学研究者らとともに行った座談会「日韓トランスナショナル」(『文学』2010・3/4)のなかでも議論した。

また、1920年代の論理構造が、50年代、60年代に回顧され、再び物語化される際に生じた問題点について、小説と映像表象との関わりも視野におさめながら検討し、論文にまとめた。

10. キーワード

- |          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| (1) 文学一般 | (2) ジェンダー | (3) メディア |
| (4)      | (5)       | (6)      |
| (7)      | (8)       | (裏面に続く)  |